巻　頭　言

新長期鉄鋼計画の策定を要望する

田　畑　新　太　郎*

わが国鉄鋼業が創設せられて以来，いくたの難関があつたと考えられるが今日程その前途に対して見透しを建て難い時代はかつてない．特に危惧せられることは鉄鋼業を推進する原動力が過度の経済競争のもとに愈々その活動力を倍加し，調整力を失いつゝあることである．民間企業として最も自主的な経営と，健全なる内容を誇つたわが国の繊維工業も，ここ数年の活潑なる投資活動の結果，半永久的軽操業を思わせる過剰設備をかゝえるに至つた．かつては政府の干渉を絶対に受けないことを自負した繊維工業が半永久的に政府の行う調整を必要とするに至つたことは，自由企業の発展を希念するわが国産業界に一つの暗影を投じたものと云わざるを得ない．

私は過去の明るい鉄鋼業の発展の歴史を考えるとき，この輝しい発展の歩を限りなく続けることこそ鉄鋼業に課せられた重大な使命であり，かつ，それが全産業の推進力ともなると考える．然し今日わが国鉄鋼業に払われている血みどろの努力が，必ずしも過去のそれの如き幸多き結果をもたらすとは考えられない．原子力の平和利用，人工衛星の成功と人類の発展を約束する科学の成果が相次いであげられているが，一方海洋資源を中心として国際協定の締結が進められ，更に日本漁業の死命を制する対ソ協定，対米加協定が，年々その厳しさを増して行く．これ等は太洋漁業の永続性を確保せんがために科学的資源調査を行つた結論を経済政策に反映させた新しい経済問題である．斯様に既存の各種産業が発展し得る経済活動の限界を確認する傾向は世界的に重要な新しい政策としてとり上げられて来た．

最近経済企画庁の発表した経済五カ年計画はわが国経済の一つの指標として明るい希望を国民に与えている．しかしその経済分析は過去の統計のマクロ分析によつて得られた結果を基礎として想定されたもので，将来の産業構造を想定し得るものでない．これがこの五カ年計画の重大なる欠陥である．しかも繊維工業も，水産業も一律に過去の発展の線を辿るものとして前提を立て計画されたものであつて，産業の発展限界を見究める資料としては何等の参考にならない．一応五カ年と云う比較的短期間の想定であるから斯様な限界を明らかにすること自体相当無理もあるが，それだけ鉄鋼業の如き発展規模の大きな産業の将来を判定する資料としては価値が低い．

世界各国は経済の長期的見透しを立て，各種の産業の前途を規制する要素の発見に努力しているが，特に鉄鋼業の如きは 20 年，50年と云うような遠い将来を想定した長期計画が斯様な意味において検討されている．

私はわが国鉄鋼業の進むべき正しい政策を確立するために，一日も早く将来の産業構造を想定し得る長期計画の策定を願うものである．そしてこの長期計画が各産業別の発展の課程と限界を示すものであれば極めて貴重なる資料である．

今日わが国経済も既存の経済基盤の上において伸びるだけ伸びたと見る人々が増えて来た．欧米で行われているような長期計画を純技術的な立場から科学的に行えば，かような限界が案外間近かに接近していることを発見するであろう．この障壁が如何なるものであるか．この障壁を如何にして打破するかはこの種の長期計画の確立によつてはじめて考え出される新政策である．

* 科学技術庁企画調整局，本会監事

かような意味の長期計画を要望する声は，段々と高まつて来ている．しかし，かような分析は従来の経済分析の手段では技術的要素を取入れることが困難なため，日本においては不可能とされていた．

欧米においてなされた長期計画は多数の技術者が特殊な教育を受け斯様な経済分析の仕事に参加している．従つて，長期計画が直ちに科学技術の長期研究計画として活用される場合が多い．

幸にしてわが国鉄鋼業界においては，民間においても行政機関においても，経済問題に参画する技術者の数が近年非常に増えて来た．私は少くとも鉄鋼業においては．官民一体となり真に科学的長期計画を立案し得る充分な能力を備えて来たと考えるものである．

鉄鋼業の長期計画を立てることは，鉄鋼業を中心とする電力，石炭，鉄鉱，輸送の長期的見透しを技術的に検討することにはじまり，土建，機械，その他凡ゆる消費分野を技術の進歩を折り込んだ新しいパターンのもとに検討すること，およびこれに応ずる最も合理的な鉄鋼の生産手段，生産規模を案出することによつて完結する．

この場合わが鉄鋼業は日本のみの鉄鋼業としてせまく考えるのでなく，少くともアジヤ経済を有機的に結合する鉄鋼業として検討さるべきこと勿論である．欧洲鉄鋼業が欧洲の共同市場を確立することにより，戦後の大飛躍のあつたことは欧洲経済に新しい感動を与えている．アジヤの経済も互に市場を公開し大規模な産業の確立を必要としている．かくしてアジヤの鉄鋼業が国境を越えて互に活動分野を拡大することは，日本の鉄鋼業の進むべき方向に輝きを加えることになろう．

最近わが国鉄鋼業の海外進出は真にめざましい．ブラジルミナヌ製鉄所の建設，インド鉄鉱山の開発，中共貿易の拡大，等相次いで朗報が報ぜられている．一方国内においては，近代的港湾の建設，大型鉱石専用船の建造等，永い間没れていた重要政策が重視されて来た．更に高度の技術研究もいよいよ盛んである．これ等の新しい鉄鋼政策や，新しい研究課題が夫々如何なる意義と重要性を持つかを適正に判断し得る高度の判断力が，鉄鋼業界を支配するようになれば，今日の鉄鋼業の混迷は一朝にして解消し長期繁栄への巨歩を進めることになろう．私は史上かつてない旺盛なる企業意慾と活動力が価値ある建設へと蓄積されんがために，新しい見解のもとに新長期鉄鋼計画が策定されることを心から切望するものである．